

やるきのんきこんき
Easy Going Farm
広報誌「NO N KI」
Vol.14 2021.2

の
ん
き



EASY



GOING



FARM



海外への挑戦

平成26年12月には Guam への海外旅行にチャレンジしました。

職員・ボランティア、利用者さん、総勢23名の団体旅行。

利用者、職員ともに海外旅行経験者は数名でしたが、半数以上は未経験。

その緊張感たるや…

パスポートを申請し、何度も勉強会を開き、精神科の内服がある方たちは病院から処方箋と診断書を出していただきました。

全員無事に入国できるのが不安で仕方ありませんでしたが、トラブルなく無事に入国できました。

会話はほぼ片言英語とジェスチャーで何とか通じました。



- ① 福岡県 スペースワールド
- ② 山口県 下松健康ランド
- ③ 福岡県 志賀島・マカド・キカガイ
- ④ 大分県 地獄めぐり海たまこ(水族館)
- ⑤ 岡山県 鷺羽山ハイランド
- ⑥ 広島県 宮島
- ⑦ 長崎県 ハウスアテンボス
- ⑧ 鳥取県 宍粟温泉・出雲町五反園・松江ナガノパーク
- ⑨ グアム 障がい者施設見学・観光
- ⑩ 東京都 東京一円野球観戦・東京一円・チンドン・ライブ
- ⑪ 福岡県 九州旅行
- ⑫ 山口県 下関門同洋旅行
- ⑬ 山口県 見島旅行
- ⑭ 大阪府 USJ・海遊館
- ⑮ 山口県 湯本温泉
- ⑯ 愛媛県 しまなみ海道の川(半分)・川津後温泉・松山城観光
- ⑰ 福岡県 スペースワールド
- ⑱ 香川県 小豆島旅行
- ⑳ 大分県 別府温泉・高崎山観光



- ㉑ 山口県 一の又(下関市温泉旅行・角島観光)
- ㉒ 福岡県 福岡一円野球観戦・水族館
- ㉓ 山口県 笠戸島(下松市)旅行
- ㉔ 山口県 下関門同観光
- ㉕ 愛媛県 しまなみ海道の川(全コース)
- ㉖ 東京都 東京一円・浅草・浅草寺観光
- ㉗ 大分県 サウキング
- ㉘ 山口県 キャンプ
- ㉙ 広島県 宮島観光
- ㉚ 山口県 湯本温泉
- ㉛ 山口県 湯本温泉
- ㉜ 山口県 岩国
- ㉝ 福岡県 福岡一円野球観戦・下関唐戸市場
- ㉞ 愛媛県 指宿温泉
- ㉟ 山口県 須佐エコエコ・キャンプ場
- ㊱ 山口県 萩本陣
- ㊲ 島根県 益田市

旅行は訓練の集大成

雨の日も風の日も毎日農場に出ている利用者の皆さんのご褒美ともいえる旅行ですが、本当の目的は日々の訓練の集大成となる中身です。

いつもの生活エリアから出て、より大きな社会を前に服装などの身だしなみ、公衆マナー、集団行動、ルールを守る、暴飲暴食をしない(自制する力)等、たくさんの日々の訓練の成果が表れる場面でもあります。

年に一度の旅行、利用者さんたちはこの一度の旅行を毎年楽しみにしています。

今年はどこに行くんだろう、お土産買いたいな、温泉入りたいな、新幹線に乗りたくないな、新年度の年間スケジュール発表の際には皆さん毎年ドキドキワクワクしています。

しかし、今年度はコロナ禍の急遽の旅行は残念ながら実施できませんでした。

来年度こそはきっとみんな揃って旅行ができる様、またコロナ終息の願いを込め、コロナ禍の今だからこそ今回は旅行特集をしようということになりました。

毎日の単調な生活の繰り返しにはない体験を通じ、新たな成長が旅には見られます。

お酒をつちよびり飲んだり、夜更かしをしたり、野球観戦をしたり、テーマパークでアトラクションに乗ったり…

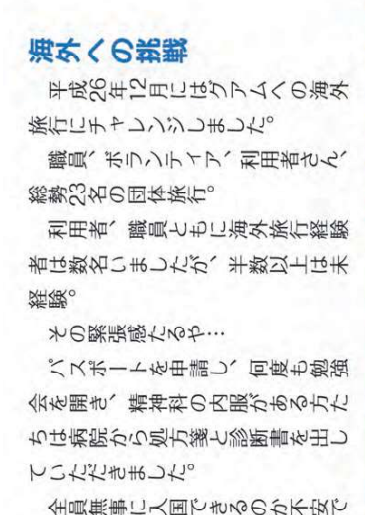
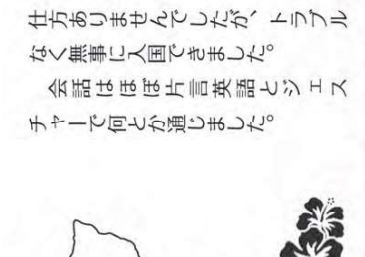
普段体験できないことを体験した利用者さんたちは、どこか少しいつもと違う顔を見せてくれます。

また、観光だけでなく地域の障がい者施設担当者とのミーティングや研修を受講したりしました。

アメリカの福祉ではADA法を基礎として地域で生活し働くことが大前提。障がい者は「何に困っているのか自分で考え、はらきりと訴える」ことを求められそれに応じた必要な支援しかないという考え方でした。

日本のように障害基礎年金制度もありません。

逆に日本という国のきめ細やかな気配りと選択肢の多さに感心を覚えた旅行となりました。



旅はいろんな形で人を成長させる

旅行前には何度かグループワークを行い、旅行の目的、旅行先に行くためのルート、タイムスケジュール等を話し合います。

この時の利用者さんの顔色は、何かもが不安な人、「食」のことが気になる人、お土産屋さんは何ヶ所行けるのか気になる人など様々。

サイクリング旅行記

このサイクリング旅行と他の旅行の違うところは「目標」が明確にあることです。日頃から長距離を自転車で走ることに慣れた利用者さんたちと基礎体力を知ることから、予定を目標に利用者さんと一緒に確認します。このページでは過去3回実施したサイクリング旅行を紹介したいと思います。

しまなみ海道 1泊2日
伯方〜今治23km
2016年5月実施

はじめてのサイクリング旅行ということもあり、職員のみで事前に試走に行きました。長い下り坂があり、スピードがかなり出ること、狭い道路では対面者との行き違いが分かります。事前にホーム周辺で練習を行いました。始めはふらつくもの、ここは日頃の訓練がものを言うのか、ほとんどの利用者さんが問題なく滑けるようになりました。

ただ一人を除いて...
旅行当日、早期にEGFを出発し、伯方に到着してすぐに自転車の受付を先に済ませました。ここで、練習の際に心配していた一人の利用者さんが普通の自転車だと足が踏まづらいい、子供用のマウンテンバイクを取ってきてチャイロスされました。この選択が後に悲劇を生みます...

昼食をとってから伯方を出発しサイクリングスタート。直後に橋のスロープがあり、それがきつい...ここで早くも足がつかまりました。中嶋地蔵のコンビニでみんなが集まるとで休憩しましたが先頭と最後尾の差は20分。最後尾は子供用マウンテンバイクの彼女、タイヤのインチャが小さく、いくら体が人がより少し小さい彼女でも苦戦したようでした。ですが自分で選んだ道です。汗だくに走りながら、先頭到着の1時間後と完了しました。先頭は1時間40分、最後尾は2時間38分の記録でした。

夕食後は道後温泉に入ったたり、温泉街を散策したりと静かに過ごしたのか、いっぽうより楽しい時間に感じたのに浴後二時半に起きる利用者さんもチムチムおられました。
2日目は松山城に登り、お城観光、あつという間に天守閣まで行き、あつという間に下りてくる。観光よりも「食べ物」買い物に興味がある利用者さんたちでした。



しまなみ海道 2泊3日
因島〜今治52.6km
2017年5月実施

去年の参加者からの希望もあり、約2倍の距離でチャレンジしたサイクリング旅行第2弾。初日は余裕をもって移動のみ、2日目の朝から因島よりサイクリングスタートとしました。当日朝、ヘルメットを逆に被る方数名...不安感が残るなか、58kmもあれば何かあるのも当然!と覚悟を決め、それでも事故だけは起こらないようにと祈りつつスタート。

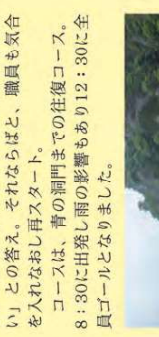


ですがやっぱりハブニングは起こります。道が分からず草むらに迷い込む人、ゴール直前左折のところで直進しゴールを通り過ぎて6km先まで走り続けたい人... (その後自力でゴールしました。スゴイ!) 何度もグループワークを重ねたり、職員同士連絡を取り合い連携をとってやっていたにも関わらずこんなことが起きたのは、やはり職員が「大丈夫だろう」という勝手な思い込みが引き起こしたのだと再認識させられました。同時に、自力でゴール地向かえる利用者さんの成長は目を眩らすものがあり、失敗しても自分の力で解決する力が備わってきているのだから感動しました。ゴール後は「来年はもうやらん!」「今度は違うコースを走りたもう!」など様々な声、また、サイクリングがとても気に入ったという声も聞かれました。

3日目は広島市交通科学館へ、ここでは新幹線や飛行機の模型を展示してあり、バッテリーカーやおもしろ自転車の体験をしました。多々ハブニングはあったものの、利用者職員一同大きなケガもなく無事に全員完走し、職員にとっても美のある旅行になりました。

大分 耶馬溪 2泊3日
耶馬溪サイクリングコース40km
2018年6月実施

サイクリング旅行第3弾。実はこの第3弾、元々は約60kmコースを計画をしていました。それが、なんと当日雨天。今回の職員参加者に雨女、雨男が居たとか居ないとか...それはさでおき、天候不良により泣く泣くコースを短縮し急遽約40kmコースへ変更としました。コース途中で利用者さんに雨が降る中、「中止にしようか? 継続しますか?」と、問うたところみんな「行きなすか?」との答え。それならば、職員も気合を入れなおし再スタート。



コースは、青の洞門までの往復コース。8:30に出発し雨の影響もあり12:30に全員ゴールとなりました。

その後、利用者さんお待ちかねの杉乃井ホテルへ。ここでは、入浴、ボーリング、カラオケなど各自自由に楽しみました。普段、ボーリングやカラオケなど無い田舎に暮らしている私たちが、この日はかなりは大はしゃぎ。遊ぶところが沢山ありきを選ばないくらいです。夕食はバイキング。ステーキ、お寿司、カニ、フカヒレラーメン、フォアグラなど...後に利用者さんのアンケートを見てみると「食べ過ぎた」の一言オンパレードでした。

今回の職員参加者にホム担当者はおらず、日中職員と児童担当職員のみで構成でした。それ故に、普段日中では見られない寝具や手荷物の管理、衛生面などの問題が浮き彫りになりました。仕事の中では分からない所が見えてきて、日中だけでなく24時間のサポートをホム職員と連携して支援していくことが必要だと再認識しました。

俺たちの旅

もう一つのステップ

この大阪旅行では利用者にて企画してもらったことで、旅行を実施するということの大変さ、楽しさを知る。また、参加者全員で話し合い、相談して決め、経験するということを目的とし実施しました。

なぜ、今回は利用者にて企画段階から関わってもらったのか。今まで何十回と旅行に行きましたが、全て職員が企画してきました。旅行の企画をする中で、自分た



ちで出来る範囲の旅行を作る。という経験をしてほしいという思いが出てきました。

そのため、今までの旅行ではなく自分たちで計画するというもう一つのステップにいけるように、また、主体性を養う機会になるよう、挑戦することにしました。

試行錯誤のグループワーク

今回は全4回のグループワークをしました。初回から私たちの考えているイメージとの違いを感じました。

第一回は「大阪方面で行きたい場所を決める」

まず、利用者6名各自行きたいところを出してもらいました。全員USが出るかと思いましたが出ない人が2人もいました。USはもちろん、大阪城、食べ歩きなど計10個の候補があがり、この中から相談し協議しました。どこに行きたいかみんなバラバラで、とにかく自分たちでは決めきれない!職員のアドバイスもありつつなんと決定しました。

第三回は「部屋割り、小遣い、何を食べるかを相談する」
部屋割りや小遣いの金額を決める

のも重要なことですが、利用者にとつて一番のメインは「食」であること痛感しました。ここでは串カツ、ここではたこ焼き、そしてお好み焼き...とどんな話も尽きません。ほとんどの話の中心は食べ物でした。この時は初日の昼食は回事務司と決め、その他はその時食べたものを食べるということになりました。

普段私たちが旅行に行く時、どこに行くか、電車を乗り継いで〇〇へ行ってみようかなど、考える時間も楽しみの一つではないかと思いません。このグループワークではそのような友達と相談して決めるという時間の共有も大切にしながら、楽しいと感じてもらえ、充実したものになるよう進めていきました。

いざ、旅行へ

みんなで考えた行程で、一泊三日で行きました。古本新喜劇で笑いきたり、買い物を楽しみで、どこに行くにもちまるとずつ好きなものを買っていたり、食には目がなく、ガッツカツ食べ過ぎてしまったり、道の途中でコンサートがあり、ツアートルックを見つけ大興奮で写真を撮ったりしました。



6人という少人数だったこともあり、みんなそれぞれ好きなように行動でき、また、自分たちが計画した旅行で楽しかったと感想をもらえたことは良かったと思います。今後はもっと時間をかけて今回利用者がやっていない部分にも取り組んだものにしていきたく思っています。

